



ひだまり

第42号

2010年3月

目次

今日日本

甲子園——高中生 青春博奕的舞台



© TJF

人物采访

大好きなファッションで 全国大会に挑戦!



© TJF

発行 財団法人国際文化フォーラム

編集人 中野佳代子

編集・制作 飯野典子

千葉美由紀

長江春子

森本雄心

翻訳・校正協力 シンプルデザイン

財団法人国際文化フォーラム
(TJF)

〒112-0013

東京都文京区音羽 1-17-14

音羽 YK ビル 3階

電話：81-3-5981-5226

ファックス：81-3-5981-5227

http://www.tjf.or.jp/

E-mail: hidamari@tjf.or.jp

第二外国語としての 日本語教育が始まっています!

(財)国際文化フォーラム(TJF)は、遼寧省の大連教育學院と共同で、中国で初めての中学校の第二外国語教育向けの日本語教材『好朋友』を制作し、2009年9月に全5冊シリーズが完成しました。この教材では「人間関係の温暖化」と「多文化共生」を編集理念とし、コミュニケーション能力や文化理解能力を養成することをめざしています。

現在、大連市では、31校の中学校が日本語の授業を開設していますが、そのうち27校が、第二外国語の日本語を開設しています(2009年5月)。英語が第一外国語として多勢を占めるなか、第一外国語としての日本語学習者は減少していますが、この27校約5,200人の生徒が「日本語を第二外国語として学ぶ」という新しい学習スタイルに、今、注目が集まっています。

第二外国語としての日本語教育の利点としては、次の2点が考えられます。

- ① 英語を第一外国語として学びながら、日本語を第二外国語として毎週1～2コマ学ぶことができ、早い時期から複数の外国語に接することができる。
- ② 第二外国語は受験科目ではないために、文法や作文指導に縛られることなく、ことばの学習の本来の目標であるコミュニケーションや文化理解を中心とした授業をおこなうことができ、未知の言語を学ぶ楽しさを十分に味わえる。

『好朋友』は、市販化されることが検討されています。また、TJFでは今夏、この教材を使ったワークショップを遼寧省瀋陽市などで開催する予定です。第二外国語の日本語に興

味がある、『好朋友』を授業で利用してみたいなど、ご意見やご要望などがありましたら、どんなことでもかまいませんので、TJFの森本(morimoto@tjf.or.jp)までご連絡ください。お待ちしております。

『好朋友』の特徴

- ・ 漫画が教材の本文になっている。
- ・ 漫画の物語の内容に合わせた話題シラバスに基づいて学習活動が掲載されている。



「くりっくにつぼん」で 高校生の声を聞くことができます!

「くりっくにつぼん(点击日本)」では、この『ひだまり』のなかの「今日日本」と「人物采访」を更に詳しく紹介するほか、授業のヒントになる「クラスアイデア」を日本語と中国語で掲載したりしています。この3月に「亲口讲述」コーナーがオープンし、「人物采访」で紹介した高校生たちの生の声を聞くことができるようになりました。このコーナーでは、高校生が自己紹介をしたり、好きなことや夢を語ったりしています。皆さんの生徒さんに、今の日本の高校生のことをもっと理解してもらうために、また日本語学習の動機づけにも、ぜひこの「亲口讲述」を活用してください。

高校生の声は、これからも増えていきますので、お楽しみに。



阪神甲子园球场

高中棒球全国锦标赛“甲子园”是棒球健儿们最憧憬的舞台。以参加甲子园为目标，高中生们通过棒球赛事而成长的身影受到全日本的关注，让众多的日本国民为之感动。不仅仅是棒球，各领域中以高中生为对象的全国大赛也在日本各地召开。

日本夏季的风景区——“甲子园”

每年8月，在兵库县西宫市的阪神甲子园棒球场都会举行“全国高中棒球锦标赛”。2009年迎来了第91届大赛，该锦标赛通称“甲子园”，其名称来自比赛球场。^{注1} 每年参赛的有49所高中的棒球队，这些学校是经过预选赛，从全日本4,000多所学校中脱颖而出，代表着各个都道府县（日本行政区划）的最高水平。^{注2} 能够参加甲子园，不仅对于高中棒球队选手来说是美好的向往，同时也是每一个打棒球孩子的理想和目标。

媒体焦点

大赛为期两周，在这期间各家媒体竞相报道。报纸的版面上除报道比赛情况以外，还介绍活跃选手们的逸闻趣事；周刊杂志刊登每天比赛中的精彩场面；体育杂志开辟甲子园赛事专集；电视台和广播电台则采用现场直播方式报道比赛开幕式，以及从每天上午9点到下午4点多，播放每场比赛的实况。



© TJF

热气蒸腾的甲子园

8月份是一年中最热而且是湿度最高的季节，在火辣辣的炎日下，每场持续两个多小时的比赛，对于选手来说，有时是相当激烈和严酷的。而在球场观众席上或是坐在电视机、收

音机前的每一位观众和听众，都屏息注视着投手的每个动作及每次投球，大家为棒球选手的精湛技艺大声欢呼，激烈的鏖战吸引住所有的观众和听众。球场上数万人震耳欲聋的加油声、两校拉拉队有节奏的铜管乐、鼓声交相呼应，其热烈升腾的气氛宛如过节一般。

进入夜晚，电视台特别播放当天比赛的集锦，即使平时对棒球不大关心，唯独对夏季甲子园感兴趣的人也不在少数。

注1: 甲子园球场每年3月份还举行“高中棒球选拔赛”，通称“春季甲子园”。

注2: 在全日本47个都道府县中，由于北海道和东京都的学校数量很多，所以各选出两所学校。



鼓舞士气力争夺冠

© Printland ISONO



版面中标有这个图标处表示在“点击日本”的网页上登有相关信息。（更详细的说明、更多图片以及登场人物本人的声音等）

<http://www.tjf.or.jp/clicknippon/>

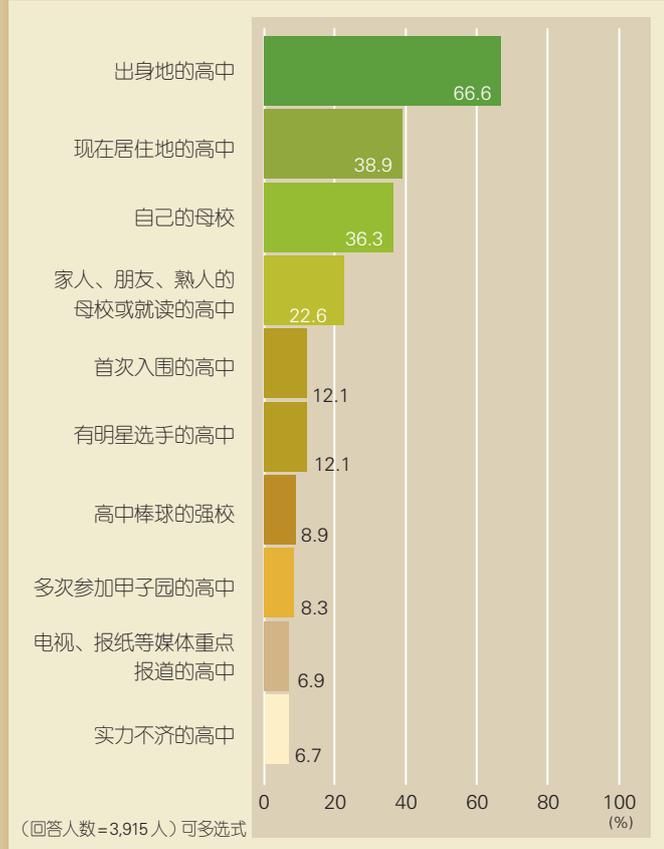
使人入迷的甲子园

如今，甲子园成为令日本国民沉迷和陶醉的一种社会现象。这究竟是因为什么呢？

区域对抗掀起热潮

甲子园之所以能受到全日本国民的关注，其背景在于大赛已经深深扎根于日本各地。在各个都道府县，一旦代表该地区参赛的学校入选后，整个地区都会群起声援，拉开前期准备的帷幕。比如，棒球队所在的学校及地区会召开欢送会；队员们会受邀访问市长和县知事，接受激励和鼓舞；校园内以及附近的商店街，都会挂满“祝贺入围甲子园！”的巨幅标语。根据调查结果显示（见下表），在问及甲子园比赛中会为

在夏季甲子园中声援哪个学校？



摘自：《有关高中棒球的问卷调查》TEPORE、2007年



在当地商店街庆祝入围甲子园

哪个学校加油？大多数人都会回答为自己出身地的学校加油。由此可见，参赛学校被看作各个都道府县的代表，当地居民会对选手们倍感亲切，并同喜同忧。

奋力拼搏

众所周知，高中棒球队的练习非常艰苦，一年当中几乎没有休息日，是一项锻炼选手身心到极致的严酷训练。选手们以夺冠为目标，奋力博弈白球的身影以及成长的逸闻，牵动着每位观众的心。此外，由于锦标赛采用淘汰制，容不得一场失败，这种紧张感也是甲子园特有的。败北的选手们双膝跪在赛场中，含着眼泪将球场的泥土捧回家乡，这已经成为一种惯例。在甲子园中，不仅是获胜的球队，包括那些败北的球队，棒球选手们奋力拼搏的身影深深铭刻在无数观众的心中。



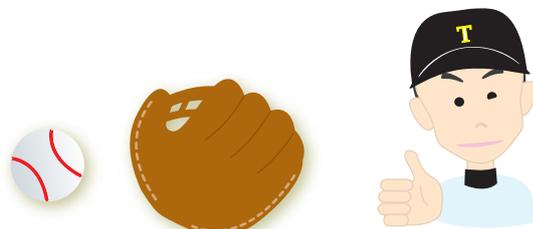
比赛结束后为胜利而狂奔的选手们

明星选手诞生之地

甲子园结束之后，曾在赛场上活跃的选手们的前途去就开始成为全日本关注的焦点。在职业棒球选手中，从活跃在甲子园赛场上的高中生时代就已经是全国知名选手的也大有人在。其中毕业于星稜高中的松井秀喜选手^{注1}、以及毕业于横滨高中的松坂大辅选手^{注2}，后来从日本职业棒球队转籍到美国职业棒球大联盟，在棒球发祥地美国也享有盛名。从他们高中时代起就予以高度关注的日本国民，不仅对他们每场比赛的输赢，对他们的运动选手生涯也显示了热切瞩目。

注1：2003年起，加盟纽约扬基棒球队、2009年起，加盟洛杉矶天使棒球队。

注2：2007年起，加盟波士顿红袜棒球队。



在打棒球中成长的高中生们

据2009年统计，约占日本全国80%的4,132所高中、近17万高中生热衷于打棒球。其中，神奈川县的横滨隼人高中就是在这一年的夏季首次入围甲子园。虽然在第二场比赛中被淘汰，但在一年前，谁都没有想到该校能有这样激动人心的壮举。

队长的决心

隼人高中的棒球队共有108名队员，严酷的训练从未间断过，平时每天训练5小时，周末及假期每天12小时。过去，虽然教练一直苦口婆心地说：“不要等我去说，大家就应彼此发现问题，互相指导！”但是，有很长一段时间大家都小心翼翼地避免发生意见冲突。队长杉本政知认为要想提高队员们的自主性，首先要改变自己。于是他以身作则，即便是严厉的意见也直言不讳地说出来。渐渐地队里的氛围开始发生变化，起初听到队长意见只是简短回答、一味应承的队员们，渐渐地开始说出自己的想法。一种人人为队长的主人公精神逐渐渗透到全队中。



横滨隼人高中的拉拉队。图中的“仲間（伙伴）”和“隼”字是同学和家人把折愿折进纸鹤，用线串制而成的。

甲子园的历史

据说，日本棒球的历史始于学生棒球。1870年代，一位在日本学校执教的美国教师开始教学生们打棒球。进入1910年代，朝日新闻社主办的校际棒球对抗赛人气迅速攀升，在这样的背景下，阪神电气铁道株式会社投资建成了日本第一个正规棒球场——甲子园。当时的日本尚处于经济发展阶段，建设球场的动机是希望通过开发娱乐休闲产业来促使人们更多地乘坐电车。后来，报纸业的发达以及全日本广播、电视网的普及，使所有日本国民都可以通过报道和荧屏关注学生棒球比赛。

108颗心拧成一股绳

虽说如此，能够代表棒球队出场比赛的只是少数队员，这是全体棒球队员面临的严酷现实。队长杉本在扭转思想上也花了大量的时间。起初他总是因为不能参加比赛而难过懊悔，后来他的想法慢慢地发生了变化：不仅要考虑自己，也要考虑整个队伍，希望能够为大家做出自己的贡献。让杉本印象最深的是在神奈川县大赛中获胜的那天，那场比赛是决定能否入围甲子园最为关键的一场比赛。没能出场的选手们也都为之激动，喜极而泣。获胜的那一瞬间大家都意识到正是因为108名队员为了整体利益而齐心协力才取得了这次胜利。

来自队友和当地居民的全力支持

第一次在甲子园球场上练习的杉本，一种梦想成为现实、抑制不住的激动心情，使击球的手都在发抖。没能出场的其他高三学生，报名参加了拉拉队，竭尽全力为球队加油。比赛期间，每天为球队练习尽心尽力的各位家长、所在学校及当地居民共400多人，或分乘50辆大巴或乘新干线赶来助威，希望亲眼目睹选手们的博弈身影。

超越国境的共鸣

在日本全国的高中棒球队中，有着各自不同的动人故事。其中两所高中的故事被拍成记录片《kokoyakyu: High School Baseball》（高中棒球／导演：Kenneth Eng, 2006），在美国的电视上播放并受到了好评。现在已经做成DVD广泛销售。在打棒球中成长日本高中生的形象超越了国境，让海内外的很多人为之而感动。

雑学博士

勝利を願って球場でよく売られているものはどれでしょう。どうしてそれが売られているのか意味も考えてみましょう。



アメリカンドッグ



フライドポテト



ハンバーガー



カツサンド



フライドチキン



おにぎり

解答・解説は「ひだまり」ウェブサイトに掲載しています。

<http://www.tjf.or.jp/hidamari/index.htm>

© TJF

高中生青春博弈的各种舞台

在日本，除了棒球以外，各领域里都有以高中生为对象的全国大赛，高中生们活跃的身影受到众多日本国民的关注。“甲子园”可以说已成为高中生全国大赛的代名词，以“甲子园”冠名的高中生全国大赛有许多，除了本文介绍的之外，还有摄影甲子园、漫画甲子园、俳句甲子园、辩论甲子园、时装甲子园（参阅“人物采访”）等等。

- 摄影甲子园 <http://town.higashikawa.hokkaido.jp/phototown/koshienofficial.htm>
- 漫画甲子园 <http://manga-koshien.net/>
- 俳句甲子园 <http://www.haikukoushien.com/>
- 辩论甲子园 <http://nade.jp/koshien/>

制作甲子园

日本全国大约有8%的高中生在读工科。该大赛是工科学生们相互竞争技术水平的活动。这类全国大赛的门槛非常高，能够参赛的选手都是经过层层选拔、百里挑一的精英，选拔程序共分校内选拔、都道府县预选及地区预选3个阶段。对于高中生来说，这样的机会不仅能够磨练自己的技术，而且能够为今后选择职业提供一个很好的契机。

从形式上看这好似一项个人竞赛，其实在选手们周围有着许多忠实伙伴。来自群马县立藤冈工业高中的新井康宏（参加全国大赛）和岩下翔（参加地区预选赛）挑战的是电工施工部门。在学校参加集训时，还有其他5名学生一起参加训练，大家一起准备材料，一起考虑提高施工速度的方法。为了在规定时间内完成竞技作业，需要花费相当长的时间进行训练，所以在暑假时，7个人也每天去学校练习好几个小时。岩下在回忆训练时说：当我遇到困难想打退堂鼓的时候，一位同伴鼓励我：“放弃也可以，不过今后当你工作了，岂不也是一个碰到困难就退缩的人吗？”同伴亲切而严厉的



在制作甲子园大赛上角逐电工施工技术的学生们

指责让他打消了临阵脱逃的念头，一种“为了同伴也要坚持到底”的信念成了他继续努力下去的动力。

制作甲子园：正式名称“高校生ものづくりコンテスト全国大会”由全国工业高中校长协会主办。

<http://www.zenkoukyo.or.jp/>

电影甲子园

为拍摄电影着迷的高中生大有人在。2009年第四届电影甲子园上共有200多部作品应征参赛。

冲绳县立开邦高中电影研究部的作品是《不及格英雄》，作品用喜剧的手法描述了每天在学校与邻座同学心灵上的交流。摄制组特别自豪的是完美的团队协作精神，从编写剧本到摄影、剪辑，由20多人分担完成。主题音乐也是由组员们自己作曲和演奏。当自己想象的画面拍成了电影，大家别提有多高兴啦！都觉得这些时间花得很有意义和价值！



电影甲子园大赛参赛作品《不及格英雄》中的一个场面

埼玉县立深谷第一高中广播部的参赛作品《樱花》，描述了在2099年的未来时代，生活在环境被破坏殆尽的地球上两位少女相遇和离别的故事。担任广播部顾问的宫川辰也老师说，在电影摄制过程中学生们看待事物的方式也在不断成熟。“作品就像自己的化身。能让学生们在制作的过程中发现平日看不到的另一个自己。”

电影甲子园：正式名称“高校生映画コンクール”由特定非营利活动法人 学校多媒体网络中心主办。

<http://www.smn.or.jp/eigakoushien/>



获得电影甲子园大赛优秀作品奖《樱花》中的一个场面

【参考资料】

有关高中棒球的问卷调查：「高校野球についてのアンケート」TEPORE、2007年

【关键表达对照】

风景线：風物詩
拉拉队：応援団
球场：グラウンド
击球：ノック
主题音乐：テーマ曲

逸闻趣事：エピソード
铜管乐：吹奏楽
职业棒球：プロ野球
辩论：ディベート
化身：分身

火辣辣的炎日：カンカン照り
娱乐休闲产业：レジャー産業
美国职业棒球大联盟：メジャーリーグ
不及格：赤点
一个场面：ワンシーン

精湛技艺：ファインプレー
淘汰制：トーナメント制
运动选手：スポーツマン
剧本：脚本

大好きなファッションで 全国大会に挑戦!

しょうこ・あかね……高校2年生、神奈川県在住

ここに登場する二人の実際の声は、「くりっくにっぼん」で聞けます。

今回登場する二人は、同じ普通科高校のファッション部に所属し、大好きな服作りに熱中しています。そんな二人は、服のデザインや製作技術を競う、高校生のための全国大会「ファッション甲子園」に出場を果たしました。

(「甲子園」の由来は「今日日本」を参照)

关于时装甲子园

时装甲子园(正式名称:全国高中时装设计锦标赛)是以日本全国高中在籍学生为对象的时装设计大赛。它是由日本青森县的弘前工商协会(Hirosaki Chamber of Commerce and Industry)等三家团体,为发展青森县的时装产业及振兴弘前市经济而创办的一项活动,自2001年开始,每年定期举办比赛。

参赛方法是由就读于同一学校的高中生2~3人组成参赛小组,制作时装设计图参加预选。通过预选赛的小组,在设计图的基础上实际制作服装及相关装饰品,并以时装走秀的形式参加在弘前市举办的最终评审会。各小组中的一名成员作为模特,穿上本组的作品在评审会的舞台上表演展示。由时装设计师及新闻工作者等组成的评委会,从设计上及制作技术上评出优秀作品并颁奖。



最终评审会开幕式的场景。从参加预选的日本全国234所学校中选出的40所学校汇聚一堂。题目由各个参赛组自由设定。其中有反映“环境问题”、“新型流感”等现代社会问题的服装以及利用木屑等新型素材制成的创意服装。

Q:ファッション甲子園をめざしたきっかけを教えてください。

しょうこ:ファッション部では、校内で年4回、そして地域で年1回行われるファッションショーに参加し、毎回決められたテーマに沿って服を作っています。例えば、リボンというテーマであれば、リボンの模様の生地を使ったり、アクセサリや服にリボンを付けたりします。

2年生になって服作りに少し自信ができてきたので、ファッション甲子園に応募してみました。ファッション



しょうこ

以前から、服作りがとても好きでした。自分のためだけではなく、友だちのために服を作ってプレゼントすることもあります。



あかね

アクセサリを作ったり集めたりすることが好きです。服作りにも挑戦してみたかったので、高校ではファッション部に入りました。

甲子園のことは何年か前にテレビで知って、おもしろそうだなと思っていました。将来はファッション関係の仕事をしたいため、こういう全国規模の大会で自分の実力を試してみたかったです。

あかね: しょうこが「一緒に応募しよう」と誘ってくれました。私も出場してみたかったので、声をかけてもらったときは嬉しかったですね。

しょうこ: デザイン画が予選を通過したと知った時は、涙が出て、手が震えるほど嬉しかったです。応募するだけで満足していたし、予選を通過できるなんて思っていなかったです。



しょうこさんとあかねさんの作品。しょうこさんがモデルを務めた。タイトルは「she has...」。

Q:最終審査会に向けて、服の製作をどのように進めましたか。また、大変なことはありましたか。

しょうこ: 余裕がないのは嫌なので、最終審査会の数日前までには完成させようと決めました。そのためにスケジュールを立てて、二人で分担して作っていきました。でも、服につける花作りに、予想以上に時間がかかってしまいました。スケジュールがずれて焦ったけれど、あかねが嫌な顔一つせずに、私の分まで縫ってくれました。部活ではたいいて一人で服を作るんですが、今回はあかねと一緒に作ったので、とても心強かったし勇気ができました。

あかね: 夜中に自宅でミシンを使っていると、家族から「ミシンの音が大きくて眠れない」と言われたのが大変でした。ミシンのスピードを上げると、音がうるさくなるんですよ。それで、ゆっくりと縫わなければいけませんでした。結局、最後の2日間は徹夜をして仕上げました。

Q: 最終審査会に出場して一番印象的だったことは何ですか。

しょうこ: 全国から選ばれて集まっている参加者は、意識が高いし、デザインセンスも抜群。服に合わせたメイク、歩き方、ポーズのとり方とかも、とても上手。同じ高校生でもここまでできるんだ、と感動しましたね。

あかね: 今まで経験してきた部活でのファッションショーは、自分の好きな服を作って見てもらうだけでした。自分やモデルだけが満足すればいいと思っていました。でも、ファッション甲子園だと、披露するだけではなく、審査員から評価をされますよね。それによって賞が決まるわけですから。そんな経験は私にとっては初めてで、衝撃的でした。残念ながら入賞できませんでしたが、ファッション甲子園に出場できたことで、たくさんの人に「いいね」と思ってもらえるような服を作りたいと思うようになりました。

Q: 将来は何になりたいですか。

しょうこ: 服の型紙を作る、パタンナーになりたいです。パタンナーは、デザイナーが描いたデザイン画をもとに、実際の服を作るための型紙を作ります。

最終審査会では、審査員から「デザイン画はとてもよかったのに、実際の服は、花の大きさや服の色などがデザイン画と違っていて残念だった」と指摘されてしまいました。このことから、デザイン画に忠実に型紙を作っていくことの大切さを学びました。

あかね: 私は、デザイナーになりたいです。いつか私がデザインした服がパリコレ注や有名な雑誌に出るといいな!

ファッション部に入るまでは一度も服を作ったことがなかったんです。人に聞いたり本を見たりしながら、作り方を覚えました。始めたばかりの頃、袖の作り方がわからなくて、トイレトペーパーの芯を型紙の代わりにしながら、袖の丸みを作ろうとしたこともあります(笑)。

試行錯誤しながら、デザインすること、製作すること



布を切り、絵の具で迷彩柄を描いていく。それを一つ一つ縫い合わせ、服に仕上げていく。

との楽しさを知ることができました。そしてこのファッション甲子園での経験によって更に服作りに対する自信ができました。将来も、ずっと服作りに関わりたいと強く思っています。

注: パリ・コレクション (Paris Fashion Week) のことで、年2回、フランスのパリで開かれる服飾ブランドの新作発表会。

ファッション甲子園は、主催者だけではなく、観客あるいはスタッフとして応援する地元の人たちにも支えられています。ファッション甲子園に関わる人たちの声を紹介します。



参加者たちのアイデアの豊富さと、夢に向かって進むパワーには驚かされます。とても同世代とは思えませんし、このような大会に出ることができるとすごいです。私も、ボランティアとしてお手伝いすることで、少しでもファッション甲子園に参加できて嬉しいです。

ボランティアスタッフ (高校3年生、女性)



毎年とても楽しみにしていて、必ず見に来ます。若い人たちの、デザインや色使いなどのアイデアには圧倒されますね。刺激を受けて私も若返りたいです。

地元観客 (50代、女性)



優勝した作品「ナン」ピース
パズルのピースはひとつひとつ違う。それでも他のピースとつながっていく、という「つながり」や「結合」を表現。



このほかの作品は「くりっくにっぼん」に掲載しています。

© Fashion Koshien Executive Committee

わたしの好きなもの



好きなことば

しょうこ: 「仕事を楽しげりゃ人生の半分は楽しいんだぜ」

「リアルクローズ」というドラマで使われていたことばです。私も仕事を楽しむ人生にしたいと強く思っています。

あかね: 素敵に無敵 (=素敵な人は、どんな困難にも立ち向かう力がある)。いつも自分がそうありたいと思うからです。

好きな色

しょうこ: 紫色。特にこれといった理由はないのですが、紫と黄色の組み合わせが好きなので。

あかね: 全部の色! カラフルだと幸せな気分になるからです。

用最喜爱的时装向全国大奖赛挑战!



祥子

高二，居住在神奈川县

我从前就非常喜欢服装制作。不仅给自己做，还把做成的衣服送给朋友们。能让别人满意，我就很开心。



茜

高二，居住在神奈川县

我喜欢制作和收集装饰品。对服装制作也很有兴趣，所以，上高中后就参加了时装俱乐部。

本期登场的两位主人公是同一普通高中时装俱乐部的学生，她们都热衷于制作服装。这次，两人都如愿以偿地获得了竞赛服装设计及制作技术的日本高中生全国大奖赛“时装甲子园”的参赛权。

Q：请说说参加“时装甲子园”的动机是什么？

祥子：在时装俱乐部，每年校内会有4次、地区有1次时装秀，我都积极参加，每次都按照指定的题目设计和制作服装。例如：如果主题是丝带，那就利用有丝带花纹的布料，或者在装饰品以及衣服上点缀丝带等元素。

上二年级以后，在做服装方面逐渐有了信心，所以报名参加了时装甲子园。几年前从电视上知道了时装甲子园，当时就觉得非常有趣。因为今后我想从事与时装有关的工作，所以就想通过这样全国规模的大赛试试自己的实力。

茜：是祥子对我说：“一起报名参加吧”。其实我也想参加，所以当祥子邀我时我非常开心。

祥子：当得知设计图通过预选的时候，我激动得流出了眼泪，兴奋之极连手都在发抖。起初的目标只是报名参赛，能够通过预选我连想也没有敢想。

Q：为了参加最终评审会，你们是怎样制作服装的？有没有遇到什么困难？

祥子：我做事不愿在时间上赶得很紧，所以决定在最终评审会开始的几天前完成作品。为此，我们制定了时间表，两人分工协作完成了作品。不过，制作服装上装饰的花所用的时间完全超出了我们的预料。不能按时间表上的进度完成缝制工作，弄得我非常焦急，但茜从未表现出厌烦的情绪，还主动帮助我缝制我所分担的部分。



观众们正在观赏参赛作品的设计图（照片为最终评审会场的展厅）。

© Fashion Koshien Executive Committee

在俱乐部里，一般都是一个人单独做衣服，这次能够和茜一起协作，给了我很大的信心和勇气。

茜：遇到的最大困难是深夜在家里用缝纫机时，家里人指责说：“声音太大了，吵得睡不着。”缝纫机的速度一加快就会特别吵。所以，我只好慢慢地缝。结果，最后的两天我不得不通宵制作。

Q：参加最终评审会时，印象最深的是什么？

祥子：从日本全国各地选拔出来的参赛者，时装意识都很敏锐，设计构思也非常超群。在与服饰相配合的化妆、走路仪态等方面也很恰到好处。让我感慨的是同样是高中生竟能表现得如此出色。

茜：迄今为止，我在俱乐部里经历过的时装秀，仅仅是制作自己喜爱的服装向他人展示而已。当时我认为只要自己和模特满意就好。但是，在参加时装甲子园时，不仅要展示给大家看，而且要经受评审员的审查。能否得奖全看审查结果如何。这种形式和经历对于我来说是第一次，让我很受震惊。这次没能得奖确实遗憾，但是通过参加时装甲子园，我开始有了这样的想法：我要设计和制作出能够让很多人称心和满意的服装。

Q：请说说自己的理想？

祥子：将来想成为一名制作服装纸样的版样设计师。版样设计师以设计师描绘的设计图为基础来制作服装纸样。

在最终评审会上，评审委员们指出：“设计图本身是非常好的，遗憾的是实际制成的服装在花的大小以及色彩方面与设计图似是而非。”这让我认识到严格按照设计图制作纸样的重要性。

茜：我想成为一名设计师。希望有朝一日我设计的服装能在巴黎时尚周^注或者有名的杂志上亮相！

在参加时装俱乐部之前我从来没有做过衣服。我不懂就问以及从书本中渐渐学会了缝纫方法。刚开始的时候，袖子的裁剪方法我完全搞不懂，于是就把厕所手纸的内芯当做纸样，试着剪裁袖子的弧度（笑）。

不过，经过反复尝试，让我感受到了设计和制作服装的快乐。而且，通过参加这次时装甲子园，我对制作服装更加有了信心，并对将来从事与服装制作有关工作的想法更加坚定了。

注：巴黎时尚周（Paris Fashion Week），在法国巴黎每年定期举办两次的品牌服饰新作发布会。

祥子和茜的作品设计图。“我觉得战斗服上的迷彩图案，作为时装非常帅气，因此，这次比赛就利用了这个元素。不过，我想要的感觉不仅是一种帅气，还希望能表现出女孩子特有的气质，于是又在衣服上点缀了几朵大花。在枪口上加上一朵花的目的是为了表达不让着装人进行射击。”



© Fashion Koshien Executive Committee